

『津島の祭り 出前授業』

11月1日、久しぶりに小学校で社会科の出前授業『津島の祭り』を行いました。私は決して授業は上手くありませんが、郷土の歴史を子どもたちに語り継ぎたいと思っています。今回は「尾張津島天王祭」と「尾張津島秋祭り」について、子どもたちの質問に答える形でプレゼンを見てもらいました。「宵祭と朝祭」「巻藁舟と車楽舟」「山車と石採車」について話しました。天王祭は「疫病退散（流行り病を防ぐ）」、秋祭りは「五穀豊穰（収穫への感謝）」をねらいとし、神様が降りて来る依代としての舟や車であることを説明しました。「能人形」や「からくり人形」、太鼓や笛、鐘など歌舞音曲で荒ぶる神様を喜ばすことも説明しました。祭りについて深く学習していた子どもたちは真剣に話を聞き、積極的に手を挙げてくれました。あまりの詳しさに感心させられました。

4日「ポールウォーキングで津島のレトロ巡り」に参加しました。春に続いて二度目のウォーキングで観光ガイドをさせていただきました。天王川を出発点にして、堀田家・津島神社・清正公社・雲居寺・良王神社・市神社・観光交流センター・堤下社を巡りました。津島の街中の建物を見てまわりました。津島の街には三つの古井戸があります。大正時代の井戸で、街の人たちが共同で使っていました。坂口町（本町・横町）、堤下社（本町）、上切（本町）の井戸が残っています。大正から昭和の初めにかけての井戸です。街中を歩くことがありましたら、是非ご覧ください。堤下社は、津島神社の遥拝（ようはい）所で、天王川の水嵩が多い時にはこの場所（金町）からお参りをしたようです。また良王神社は、南北朝時代に後醍醐天皇の子宗良親王、その子尹良親王（ゆきよししんのう）の子良王君（よしたかぎみ）がお祀りしてあります。このことから、津島の街は南朝方についていたことがわかります。こんなガイドをさせていただきました。

先月のHPで「三つの美術展めぐり」についてお伝えしました。津島の学校に残る書画の展示をお願いしました。私は会場の展示の素晴らしさに感激しました。展示を指導していただいた高北幸夫先生にお話をお聞きしました。「まず展示物の高さ、目の高さより若干低く（現在は車椅子で見学される方もみえる）」「正面に大きな作品を置く」「パネルで面を区切ることができるのなら、それぞれの向きにテーマを持って」プロの展示方法についてお聞きできました。美術展の見学、是非足をお運びください。

令和6年11月5日
津島市教育委員会
教育長 浅井厚視